

2021年12月3日

■ 基準価額の推移

期間：設定日（2018年10月19日）～2021年11月末

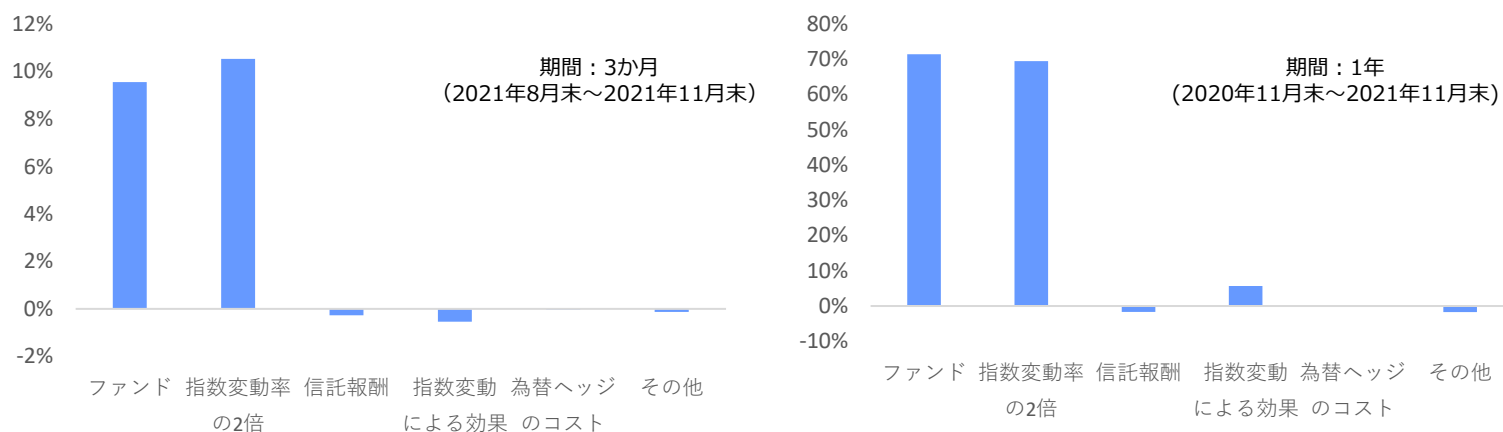
単位：円



※基準価額の計算において、運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

■ リターンの要因分解



※指数変動率の2倍：期間初および期間末のNASDAQ100指数の2時点間の変化率を2倍したもの。指数変動率の計算の際には、基準価額算出日に応答するNASDAQ100指数の値を使用。

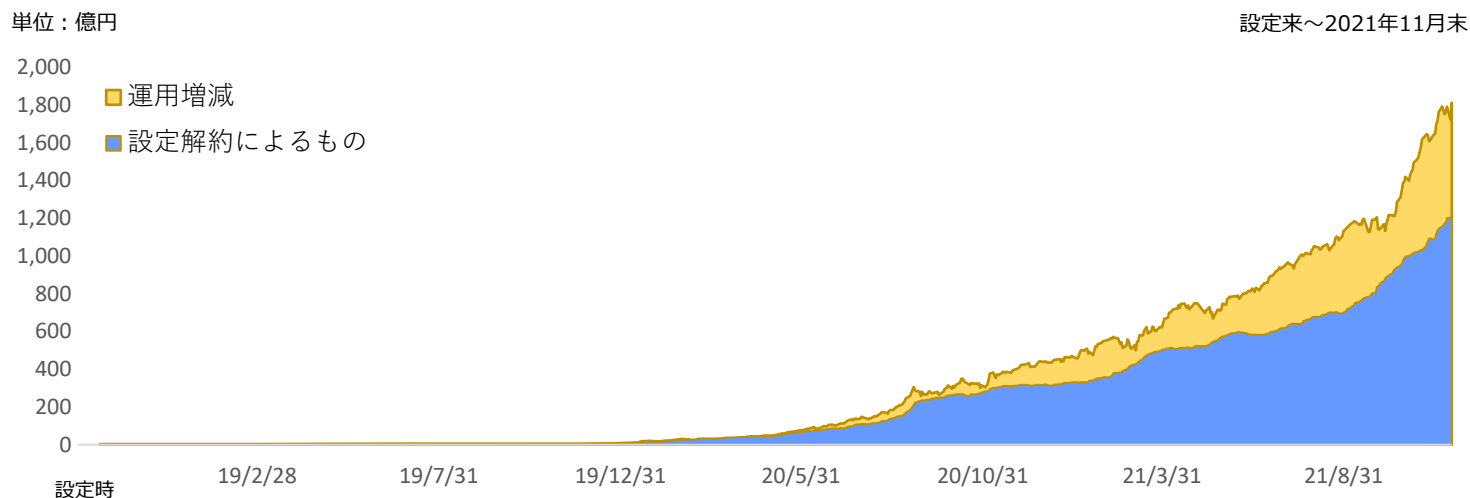
※指数変動による効果：「指数変動率2倍の日次累積」（後述）から、「指数変動率の2倍」を引いたもの。一般に、指数が上昇・下落を繰り返しながらボックス圏で動いた場合にはファンドリターンを押下げる要因になり、上昇・下落のトレンドが出た際にはファンドリターンを押上げる要因になります。

指数変動率2倍の日次累積・・・該当する期間における日次の指数変動率の2倍を日次複利で累積したもの。指数変動率の計算の際には、基準価額算出日に応答するNASDAQ100指数の値を使用。

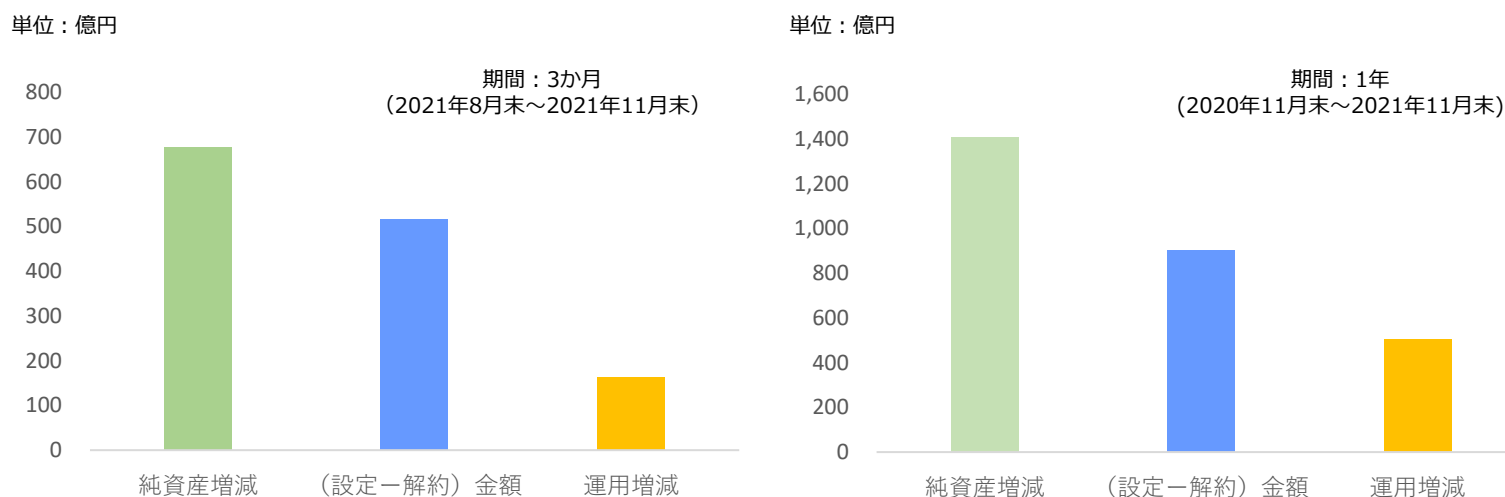
- いずれの期間も、ファンドリターンの大部分は「指数変動率の2倍」によるもの
- 「指数変動による効果」と「為替ヘッジのコスト」による影響は限定的
- 「為替ヘッジのコスト」は3か月で-0.03%、1年で-0.21%

純資産の推移と内訳

純資産総額の推移

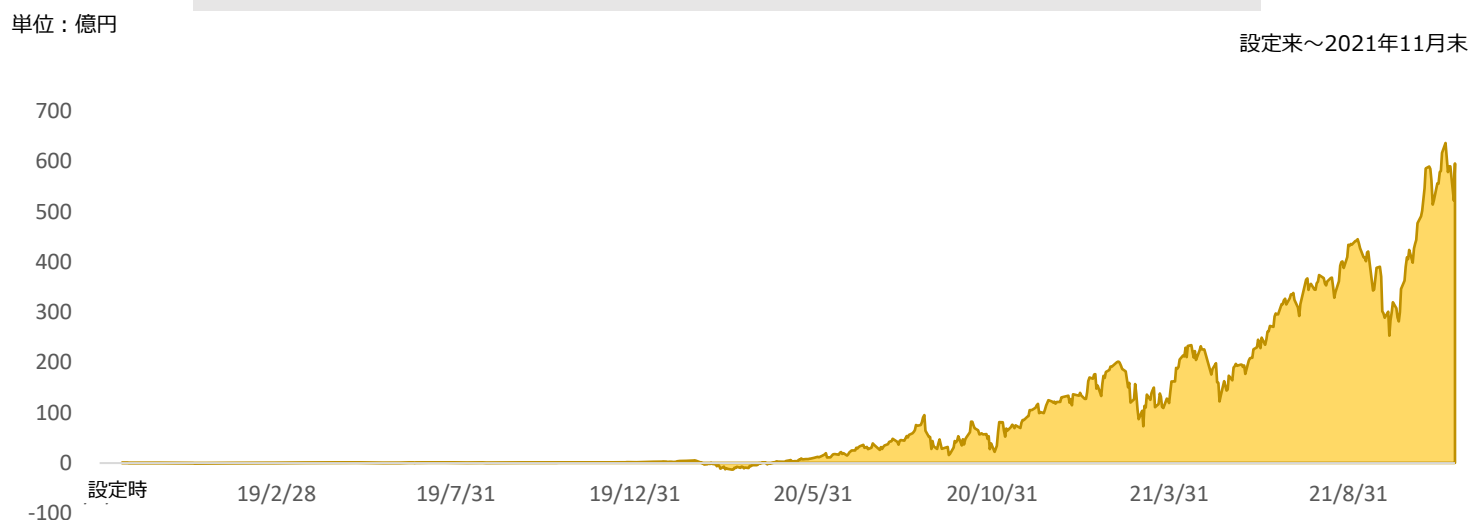


純資産増減の要因分解



累積投資家利益額

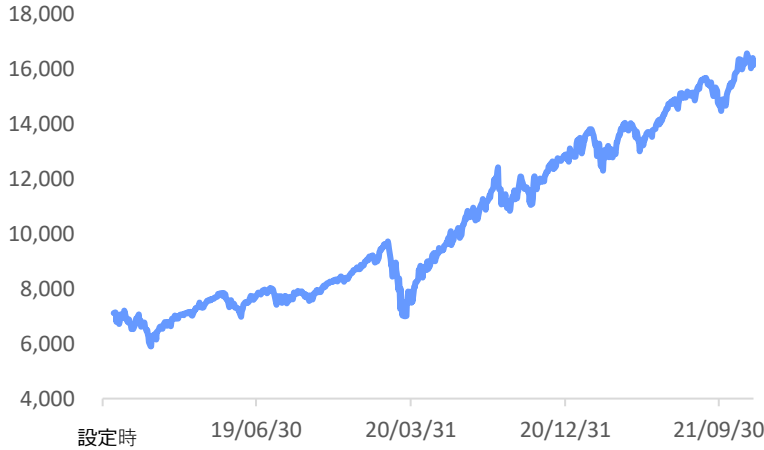
投資家利益額・・・投資家がファンドを保有することで得た利益の総額



NASDAQ100指数の概況

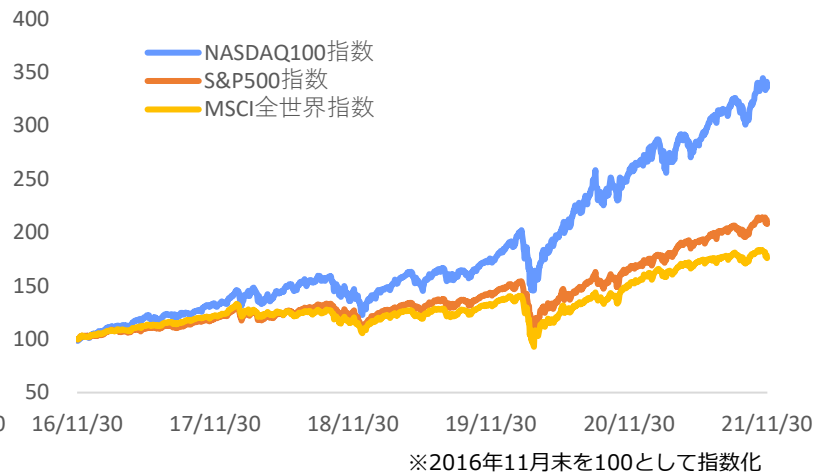
■ 指数の推移

設定来～2021年11月末



■ 主要指数との比較

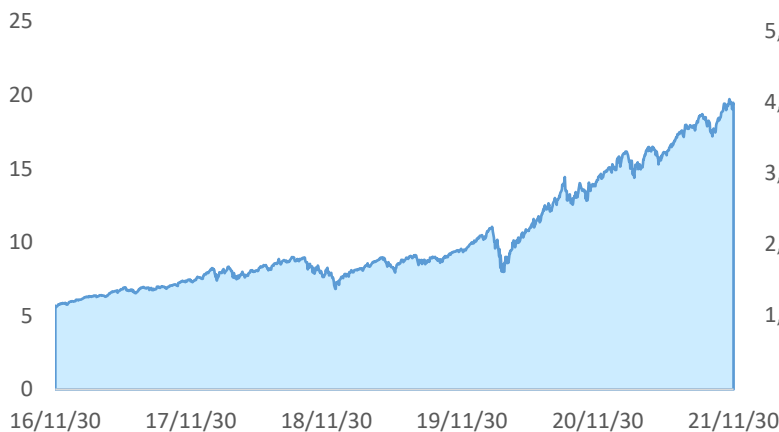
5年間（2016年11月末～2021年11月末）



■ 指数構成銘柄の時価総額総計推移

単位：兆ドル

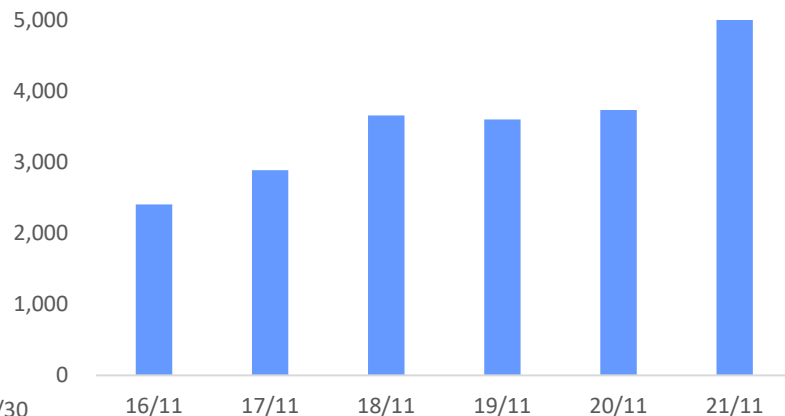
5年間（2016年11月末～2021年11月末）



■ 指数構成銘柄の純利益総計推移

単位：億ドル

5年間（2016年11月末～2021年11月末）



■ 四半期決算概況（2021年7-9月期）

（出所）ブルームバーグのデータをもとに当社作成

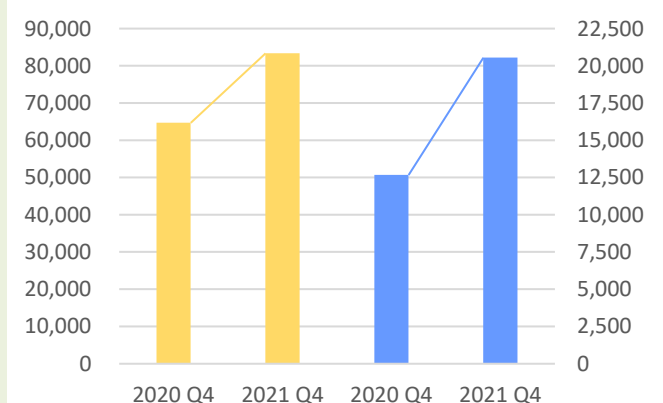
- 21年7-9月期のNASDAQ100銘柄は前年同期比で増収・増益となり、市場予想を上回る好業績となりました。前期に比べると増収・増益幅は小幅となったものの、サプライチェーンや人手不足などの懸念から業績の期待感が高くなかった中で、依然として歴史的にみて高い水準での成長となり、総じて予想よりも良かったという印象です。
- テーマ別では、前期からのトレンドに大きな変化はなく、クラウド関連の需要拡大や電気自動車の販売が好調であったことなどが引き続き好業績に寄与しました。
- 個別企業では、マイクロソフトやテスラといった大型銘柄の堅調さが目立ちました。マイクロソフトについては、企業のハイブリッド勤務促進により、クラウドサービスの需要が高まったことや、巣ごもり需要でゲーム機の販売が好調であったことが好業績に寄与しました。また、テスラについては、世界的な半導体不足が長引いているにもかかわらず、過去最高の納車台数や最高益を記録など、好調な決算となりました。一方で、前期からEC成長が鈍化しているアマゾンの決算は市場予想を下回る結果となりました。輸送コストの増加等も影響しており、今後の動向には注意が必要です。

NASDAQ100指数主要構成銘柄の決算概況①

■ 売上高（左軸） ■ 純利益（右軸）
単位：百万ドル

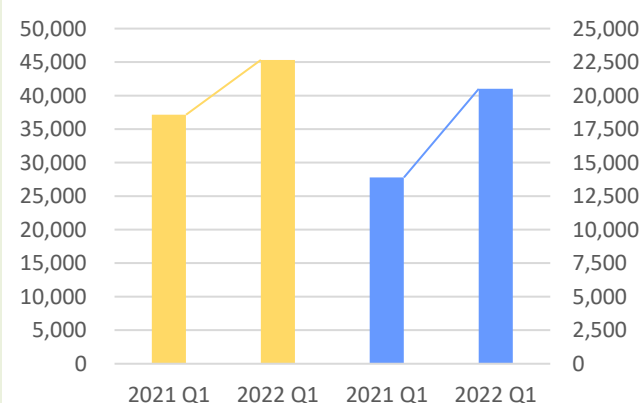
<アップル>

売上高が前年同期比29%増収、純利益は62%増益となり、いずれも7-9月期としては過去最高だったものの、売上高は市場予想を下回りました。世界的な半導体不足からサプライチェーンの制約を受け、売上高が60億ドル押し下げられたことが影響しました。Mac部門の売上高が7-9月期で過去最高となり、iPhone部門は前年同期比47%増収と好調である一方で、10-12月期はサプライチェーンによる制約はさらに拡大する見通しです。



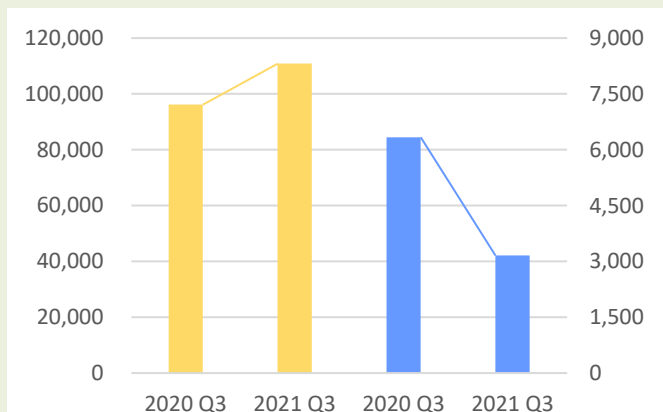
<マイクロソフト>

売上高が前年同期比22%増収、純利益は48%増益となり、市場予想を上回っての着地となりました。クラウドサービスの「Azure」や法人向け「Office365」への需要が堅調でした。また家庭用ゲーム機「Xbox」の新型機の人気も継続し、大幅増収となりました。一方で、世界的な半導体不足により供給が需要に追い付かない状況となっており、クリスマス商戦を含む10-12月期も需要が供給を上回る状況は継続する見込みです。



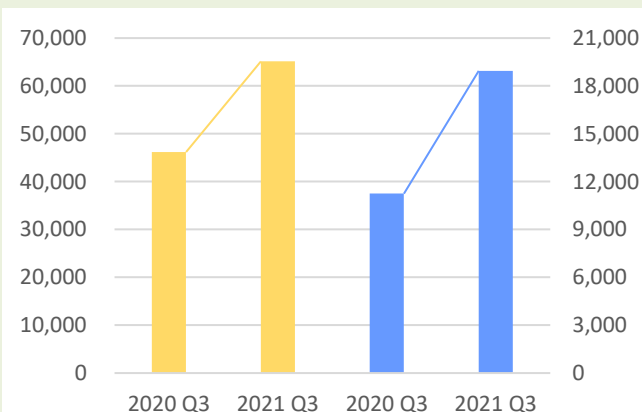
<アマゾン>

売上高が前年同期比15%増収、純利益は50%減益となり、いずれも市場予想を下回りました。クラウドサービスのAWSが前年同期比39%増収と好調だった一方で、主力のネット通販事業が同3%増にとどまりました。減益は6四半期ぶりで、ネット通販への需要が急増した新型コロナウイルス感染拡大以降初めてです。人件費や輸送コストが増加したことで利益を圧迫したと思われます。



<グーグル>

売上高が前年同期比41%増収、純利益は68%増益となり、いずれも7-9月期として過去最高を更新し、市場予想を上回っての着地となりました。主力事業である広告収入は前年同期比43%増と高成長を維持し、クラウド事業も同45%増と高い成長が続きました。また、アップルのプライバシー保護ルール変更による影響は軽微だったとコメントがありました。



（出所）ブルームバーグ

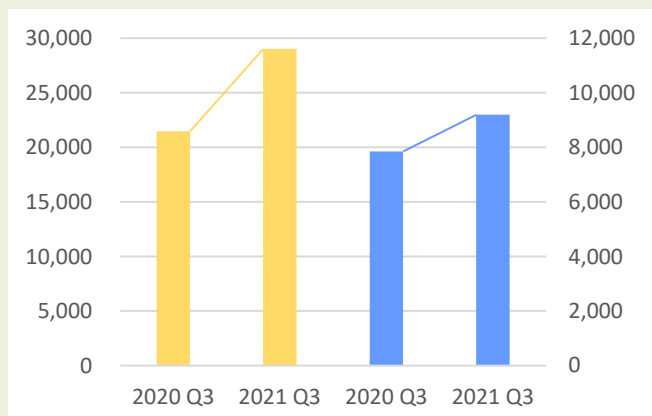
Daiwa Asset Management

NASDAQ100指数主要構成銘柄の決算概況②

■ 売上高（左軸） ■ 純利益（右軸）
単位：百万ドル

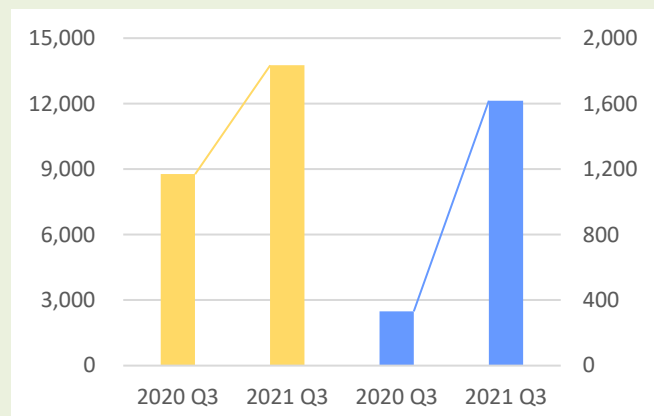
<フェイスブック>

売上高が前年同期比35%増収、純利益は17%増益となり、7-9月期としては過去最高だったものの、売上高は市場予想を下回りました。9月末時点の月間利用者は傘下アプリを含めると12%増となり、利用者数が伸びたことで広告収入が増加した一方で、アップルがターゲティング広告の制限につながる機能を強化したことなどを受け、売上高の伸び率は鈍化し、成長に減速感がみられました。



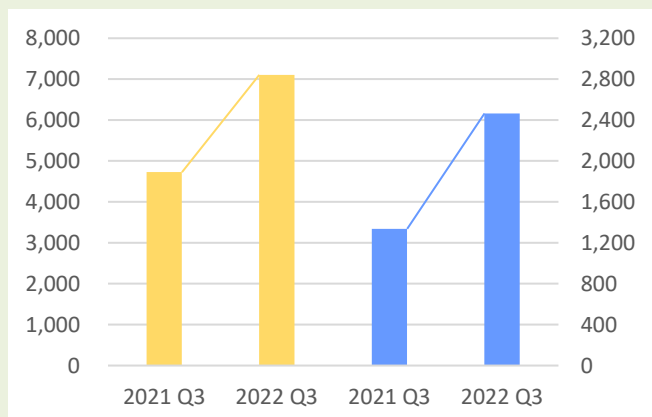
<テスラ>

売上高が前年同期比57%増収、純利益は4.9倍となり、ともに7-9月期として過去最高を更新しました。自動車各社が半導体不足に苦しみ中、代替品の採用やソフトウェアによる対応で増産を維持し、世界販売台数も過去最高となりました。温室効果ガス排出枠の売却収入は前年同期比で30%減となりましたが、コスト抑制により本業の収益力が向上しました。



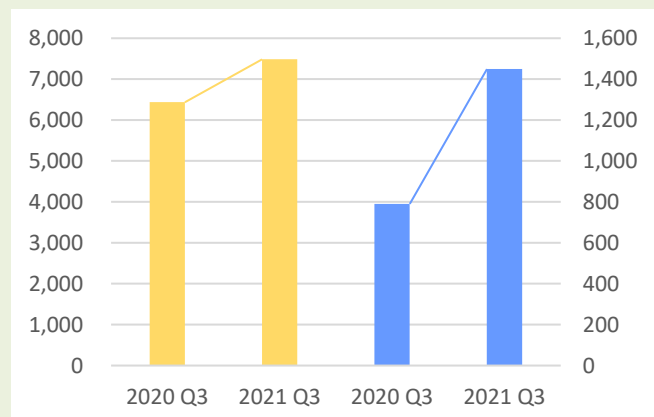
<エヌビディア>

売上高が前年同期比50%増収、純利益は84%増益となり、ともに市場予想を上回りました。新型コロナウイルス感染拡大以降需要が増えているゲーム関連の売上げが前年同期比で42%増と過去最高となり、データセンター向けも同55%増と過去最高となりました。また、2019年に発表した自社メタバース「Omniverse」関連の売上高も大幅増となり、今後の業績への寄与が期待されます。



<ネットフリックス>

売上高が前年同期比16%増収、純利益は83%増益となり、売上高は市場予想と同水準、純利益は市場予想を上回っての着地となりました。有料会員数は前期末比+438万人となり市場予想および会社計画（+350万人）を上回りました。巣ごもり需要に伴い急増した前年の反動があったものの、「イカゲーム」などが話題を集め、会員の伸びに寄与しました。

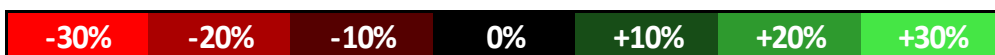
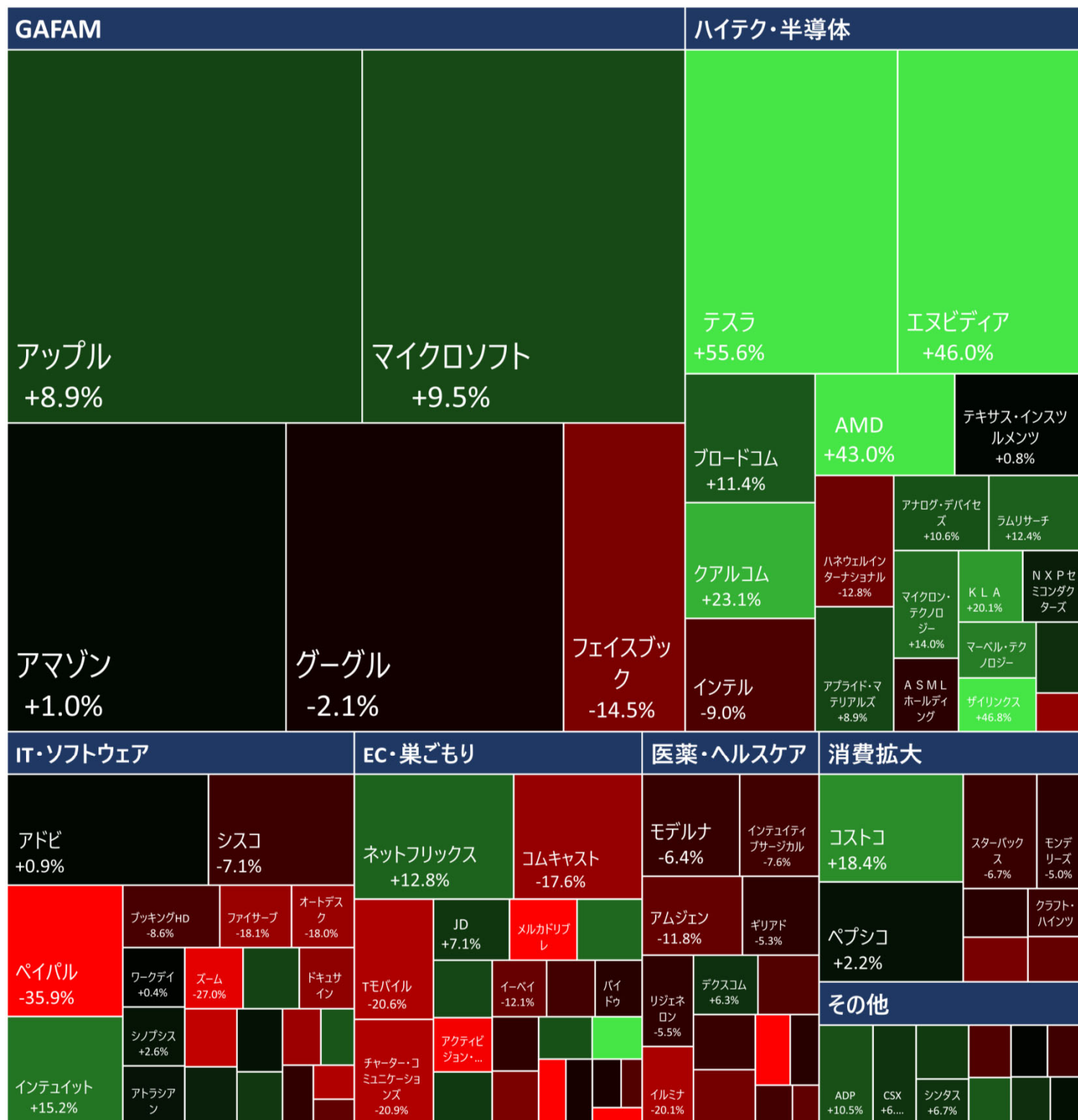


（出所）ブルームバーグ

Daiwa Asset Management

直近3か月間の個別銘柄騰落率ヒートマップ

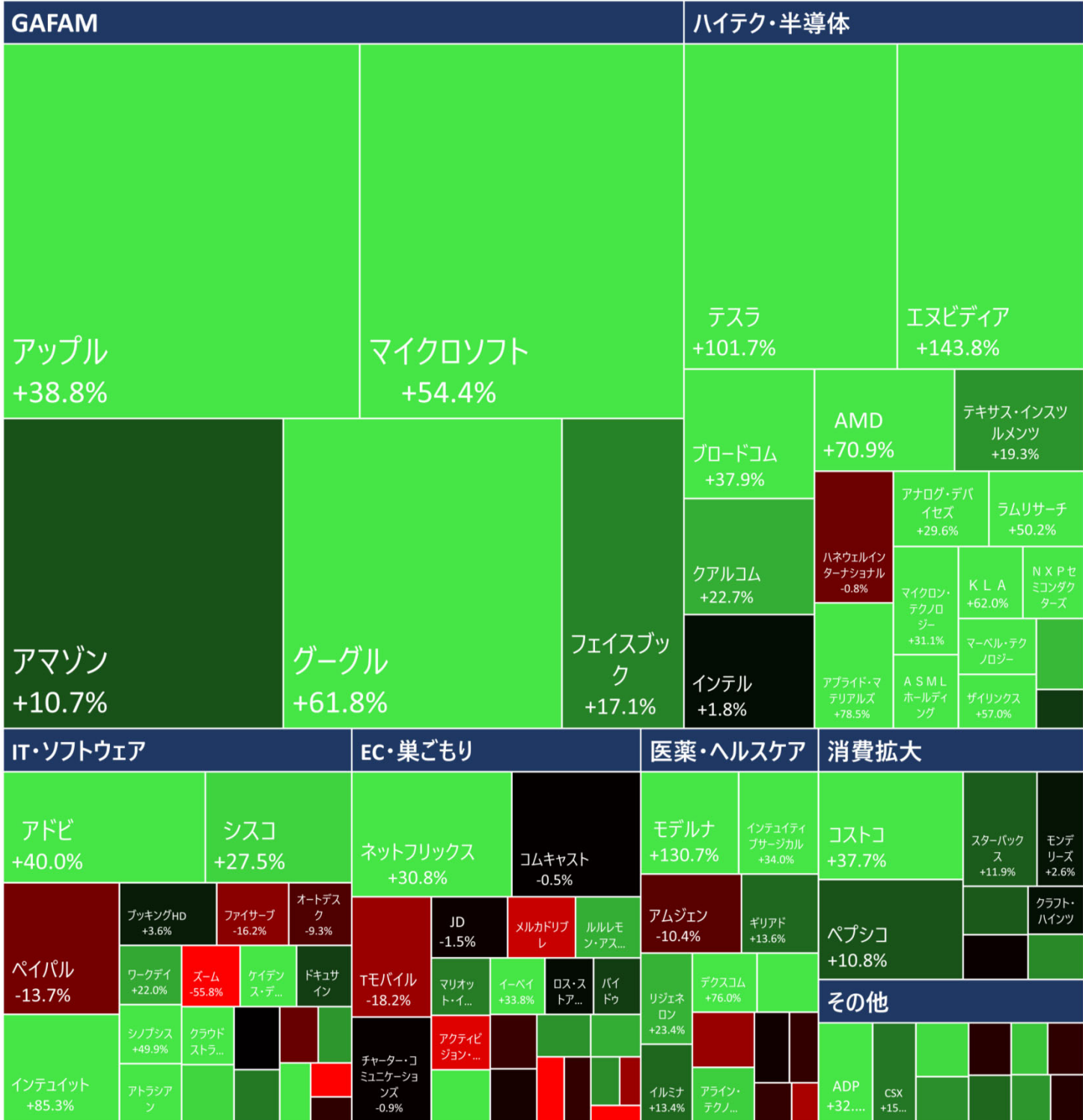
2021年8月末～2021年11月末



(出所) ブルームバーグのデータをもとに当社作成

1

2020年11月末～2021年11月末



(出所) ブルームバーグのデータをもとに当社作成

保有ポジションのイメージ図

- 実質的な保有セクター、銘柄及び金額と原資のイメージを貸借対照表の形式で表しました。
- 当ファンドはレバレッジを活用する仕組みとなっているため、貸方サイドおよび借方サイドの大きさはそれぞれ純資産額の2倍になります。
- 貸方サイドの合計額は、自己資本に相当する純資産額に、レバレッジがもたらす効果である純資産額と同額の外部資本を加えた額になります。
- 借方サイドの保有セクターは情報技術、コミュニケーション・サービスが中心になり、個別銘柄ではアップル、マイクロソフト、アマゾン、グーグルなどです。合計金額は純資産額の2倍になります。

2021年11月末時点

情報技術：1,839億円 ・アップル：424億円 ・マイクロソフト：386億円 ・エヌビディア：193億円 ・アドビ：75億円 ・シスコ：55億円 など	外部資本 (レバレッジ効果) 1,810億円
コミュニケーション・サービス：651億円 ・グーグル：274億円 ・フェイスブック：120億円 ・ネットフリックス：67億円 ・コムキャスト：54億円 など	自己資本 (純資産額) 1,810億円
一般消費財：630億円 ・アマゾン：276億円 ・テスラ：220億円 ・スターバックス：31億円 など	
ヘルスケア：209億円 ・モデルナ：34億円 など	
生活必需品：169億円	

資本財：93億円 公益事業：30億円

■ ファンド純資産100万円あたりのオーナーシップ保有額

GAFAM 82万円	ハイテク・半導体 48万円	IT・ソフトウェア 23万円	EC・巣ごもり 19万円	医療・ヘルスケア 12万円	消費拡大 11万円	その他 6万円
---------------	------------------	-------------------	-----------------	------------------	--------------	------------

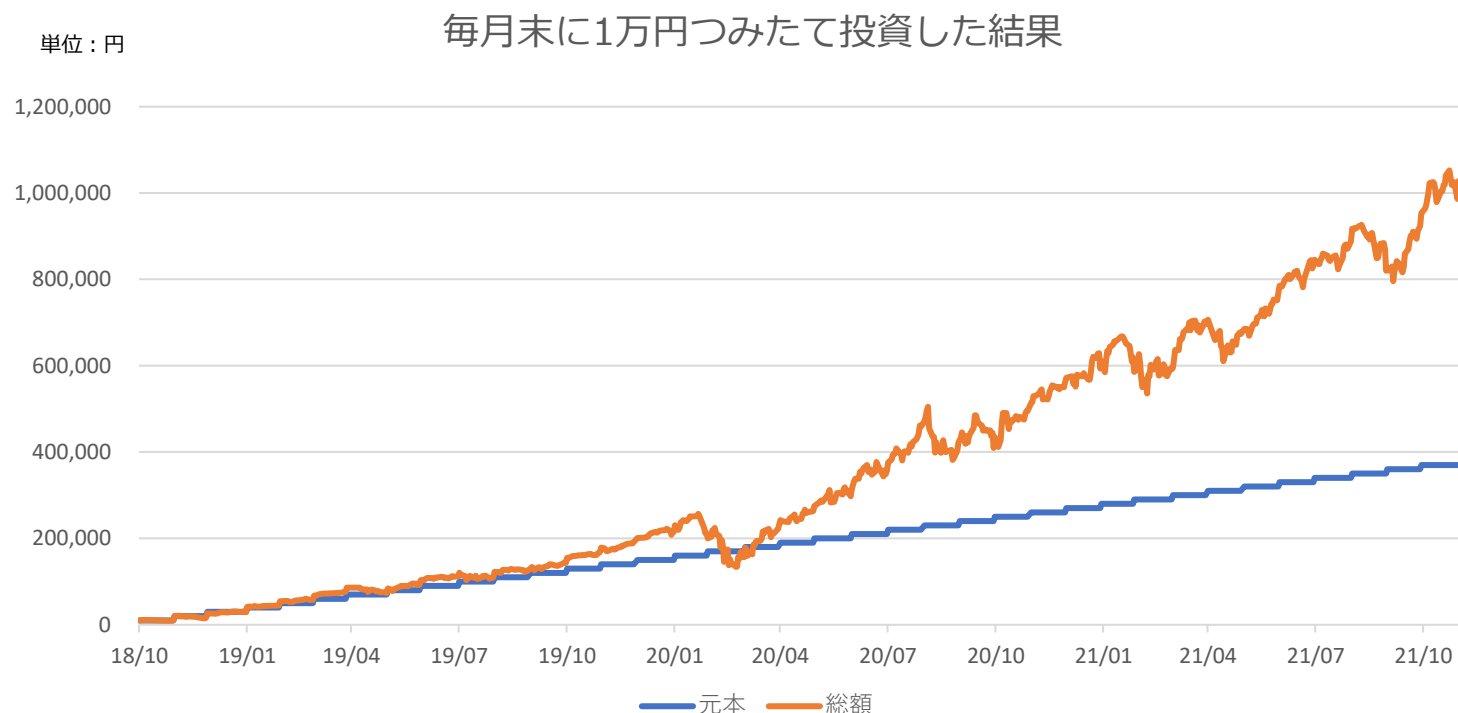
GAFAM				ハイテク・半導体			
アップル ¥234,294		マイクロソフト ¥213,022		テスラ ¥121,688		エヌビディア ¥106,590	
アマゾン ¥152,295		グーグル ¥151,481		ブロードコム ¥29,639	AMD ¥25,065	テキサス・インスツルメンツ ¥23,173	
				クアルコム ¥26,575	アナログ・デバイス ¥12,639	ラムリサーチ ¥12,592	
		フェイスブック ¥66,320		インテル ¥26,045	ハネウェルインターナショナル ¥18,219	マイクロン・テクノロジー ¥12,339	K L A ¥8,134
					アブライド・マテリアルズ ¥17,341	ザイリンクス ¥7,377	
IT・ソフトウェア			EC・巣ごもり	医療・ヘルスケア		消費拡大	
アドビ ¥41,639		シスコ ¥30,155	ネットフリックス ¥37,070	モデルナ ¥18,562	インテュイティブサージカル ¥15,107	コストコ ¥31,112	スターバックス ¥16,868
ペイパル ¥28,347	ブックシングHD ¥11,261	ファイザー ¥8,340	JD ¥8,663	アムジェン ¥14,736	ギリアド ¥11,277	ペプシコ ¥28,815	
	ワークデイ ¥6,834	ズーム ¥6,641	イーベイ ¥5,722	リジェネロン ¥8,730	デクスコム ¥7,102		
インテュイット ¥23,258	シノプシス ¥6,785		チャーター・コミュニケーションズ ¥15,501	イルミナ ¥7,460		その他	
						ADP ¥12,746	

※各保有額は指数構成ウエートから計算した概算値

(出所) NASDAQのデータをもとに大和アセットマネジメントが作成

Daiwa Asset Management

積立投資実績①



- 当ファンドに対して、毎月末の基準価額で1万円の積立投資を行った結果です。
- 上段のグラフは毎月積立投資した結果の元本込みの金額ですが、下段は元本を除いた損益だけを取り出したグラフです。
- 2018年10月から2021年10月までの37か月間の月末1万円積立投資による結果は、2021年11月末時点で投資元本370,000円が1,028,069円になりました。この積立投資による内部収益率（月次）は5.0%となり、年率換算では78.6%でした。

積立投資実績②

	2018年10月	2018年11月	2018年12月	2019年1月	2019年2月	2019年3月	2019年4月	2019年5月	2019年6月	2019年7月	2019年8月	2019年9月
1万円投資した結果	45,838	44,781	54,509	46,768	43,185	40,945	36,430	42,241	38,031	35,594	38,113	38,507
経過月数	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26
騰落率	358%	348%	445%	368%	332%	309%	264%	322%	280%	256%	281%	285%
年率換算	64%	65%	79%	72%	70%	70%	65%	78%	74%	72%	81%	86%

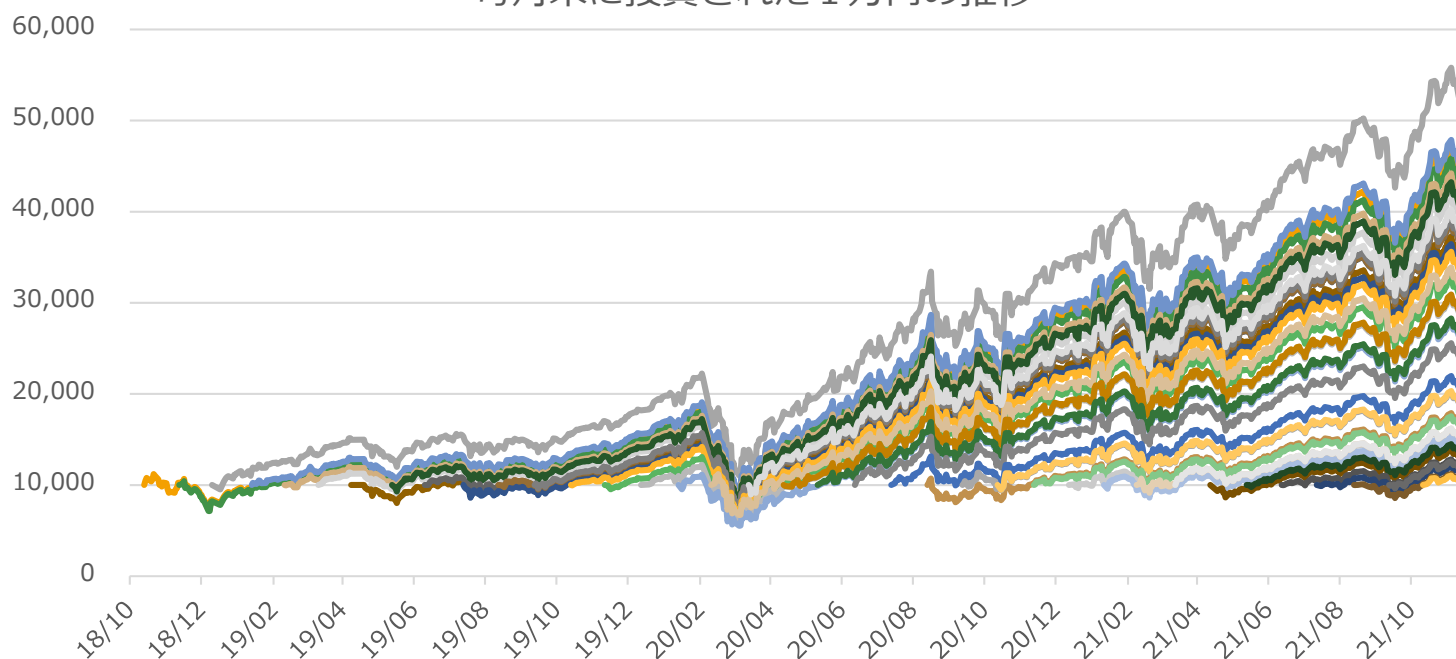
	2019年10月	2019年11月	2019年12月	2020年1月	2020年2月	2020年3月	2020年4月	2020年5月	2020年6月	2020年7月	2020年8月	2020年9月
1万円投資した結果	34,772	32,054	29,967	27,291	33,098	39,329	30,192	27,620	24,972	21,455	17,471	19,712
経過月数	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14
騰落率	248%	221%	200%	173%	231%	293%	202%	176%	150%	115%	75%	97%
年率換算	82%	79%	77%	73%	98%	127%	101%	97%	91%	77%	56%	79%

	2020年10月	2020年11月	2020年12月	2021年1月	2021年2月	2021年3月	2021年4月	2021年5月	2021年6月	2021年7月	2021年8月	2021年9月
1万円投資した結果	19,845	17,141	15,660	14,915	15,820	15,828	13,527	14,149	12,516	11,761	10,955	12,299
経過月数	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
騰落率	98%	71%	57%	49%	58%	58%	35%	41%	25%	18%	10%	23%
年率換算	88%	71%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	2021年10月
1万円投資した結果	10,779
経過月数	1
騰落率	8%
年率換算	-

単位：円

毎月末に投資された1万円の推移



- 上段は、当ファンドの設定来、月末の基準価額で1万円ずつ積立投資した場合に、各月の投資金額1万円が2021年11月末時点でのどのような結果となったかを試算した表です。
- 下段は、各月の投資金額1万円が、2021年11月末にかけて具体的に何円になっているかの推移を表したグラフです。
- 最も結果が良かったのは、設定2か月後の2018年12月末に投資したケースで、投資期間3年弱で5倍以上の54,509円になりました。途中で最も大きく下落したのはコロナショック前の2020年1月末に投資した10,000円で、コロナショックによる下落局面で5,523円まで下落した後、最終的には27,291円になりました。

投資家のみなさまへ

大和アセットマネジメント
CIO（最高投資責任者）
熊原祐次

今回が3か月ぶり3回目の特別レポートです。前回からの3か月間で基準価額は38,481円から9.6%上昇し、42,157円になりました。また、純資産額も1,810億円となり、1,133億円から60%増加しました。新しい投資家の方も増えているようですが、当社HP上には当ファンドに関する特集ページやレター等のコンテンツが多数掲載されています。みなさまの投資判断の材料の一つとして活用していただければと存じます。

https://www.daiwa-am.co.jp/funds/detail/3377/detail_top.html

<1ページ>

当ファンドの3か月、1年における基準価額の変動を要因分解しました。両期間ともにNASDAQ100指数が上昇したことから基準価額は上昇、変動要因の大半が「NASDAQ100指数の変動率の2倍」によるものでした。一部の方々が懸念しているような「逡減」、「減価」はグラフの「指数変動による効果」を見ていただければお分かりいただけるかと思いますが、「指数変動率の2倍」に比べると、相対的に小さな影響でした。同様に、「為替ヘッジのコスト」も小さな影響でした。

<2ページ>

純資産額は、2020年1月以降、増加基調が鮮明になり、2021年11月末では1,810億円になりました。また、当ファンドへの投資を通じた投資家のみなさまのリターンである「投資家利益額」は、これまでに595億円まで積み上がりました。仮に、同期間に同金額が「世界の株式市場に幅広く分散投資されたインデックスファンド」に投じられていたとしても、このような結果にはなっていません。良い投資先を選定するのは大前提ですが、レバレッジを活用することで、このような成果を達成することができました。

<3～5ページ>

当ファンドの設定来、NASDAQ100指数は比較的大きな変動を伴いながらも上昇しました。過去5年間を振り返ると、NASDAQ100指数は、世界株の代表的な指数である「MSCI 全世界指数」や米国株の代表的な指数である「S&P500指数」と比較しても、相対的に大きく上昇しました。5年間で、NASDAQ100指数構成企業の時価総額は3.4倍になり、純利益額は2.2倍になりました。

また、2021年7-9月期の四半期決算は、サプライチェーンや人手不足などの懸念があり期待感が高くなかったものの、クラウド関連の需要拡大や電気自動車の販売が好調であったことなどが引き続き好業績に寄与しました。NASDAQ100指数の推移については、変動を伴いながらも上昇しています。4、5ページの個別企業の決算内容を見ていただければ、指数の上昇が指数構成企業の業績向上を伴った動きであることが、お分かりいただけるかと思います。

< 6、7 ページ >

直近3か月および1年間の個別銘柄の値動きを、分野別にまとめたうえで騰落率に応じて色付けし、視覚的に分かりやすいように表してみました。3か月に関しては、「GAFAM」、「ハイテク・半導体」の上昇とそれ以外の分野の低迷という傾向が出ていると思います。1年に関しては、全分野ともに上昇したことが分かります。

< 8、9 ページ >

当ファンドは、実質的に「みなさまから拠出された自己資本に加えて、自己資本と同金額の外部資本を活用する」というスキームとなっている点が、他の多くのファンドと異なっております。当ファンドを100万円保有すれば、アップル、マイクロソフト、アマゾン、グーグル、テスラの株式をそれぞれ12〜23万円程度ずつ保有し、更にその他のNASDAQ100指数構成企業の株式と併せて合計200万円の株式を保有するのと、実質的に同等になります。つまり、レバレッジをかけることで、限られた資金を効率的に活用することができる仕組みです。9ページを見ていただくと、NASDAQ100指数構成銘柄が現在の世界経済の中心に位置する超優良企業の集合体であることが確認できるかと思います。

< 10、11 ページ >

当ファンドが設定された2018年10月以降、「月末の基準価額で10,000円ずつ積立投資した結果」について掲載しました。各投資対象共に、コロナショックの局面で一時的に純資産額が投資元本を下回る局面もありましたが、概ね良好な結果になりました。

また、「各月末に投資したそれぞれの10,000円が具体的に何円」になっているのかを表とグラフで示しました。最も結果が良かったのは、設定2か月後の2018年12月末に投資した10,000円で、投資期間3年弱で5倍以上の54,509円になりました。途中で最も大きく下落したのはコロナショック前の2020年1月末に投資した10,000円で、コロナショックによる下落局面で5,523円まで下落した後、最終的には27,291円になりました。2018年10月から2021年10月までの37か月の月末10,000円積立投資による結果は、2021年11月末時点で総投資元本370,000円が1,028,069円になりました。この積立投資による内部収益率（月次）は5.0%となり、年率換算では78.6%でした。

<おわりに>

「NASDAQ100指数を構成する超優良企業群のオーナーシップを効率的に保有する」。これこそが、当ファンドの本質的な意味合いです。また、当ファンドはレバレッジをかける際に金融派生商品を活用するため実際に出資するわけではないのですが、当ファンドを、自己資本に加えて外部資本も活用する「効率的な出資ツール」とする捉え方も可能かと思えます。

投機、投資ではなく「出資」。「出資」となると、時価すなわち日々の換金可能額よりも、出資先企業の成長性、将来性がより重要になってきます。当ファンドを出資ツールと捉えることで、ファンドの保有期間の時間軸のイメージや日々の値動きに対する感じ方も変化すると思います。また、「出資」ですから、投機家、投資家ではなく、マインドとしては「資本家」ということになります。当ファンドの保有を通じて、「資本主義のもと、資本家として、アップル、マイクロソフト、アマゾン、グーグル、テスラといった資本主義の頂点に立つ企業群を部分所有する。そして、これらの企業の長期にわたる成長の果実を、資本家として享受する」。このように考えてみてはいかがでしょうか。当社HP上に関連コンテンツを掲載していますので、ご一読いただけたらと思います。

<https://www.daiwa-am.co.jp/special/ifreeleverage/>

また、この考え方を実感できるようなツールとして、大和アセットでは「オーナーシップ電卓」を開発し、当社HP上に載せています。空欄にご自身の当ファンド保有額を入力していただければ、「NASDAQ100指数を構成する超優良企業群のオーナーシップを効率的に保有する」感覚を味わっていただけたらと思います。

https://www.daiwa-am.co.jp/special/ownership_calculator/ifreeleverage_nasdaq100/

今を遡ること3年半、私の「熟考した末の閃き」から始まった当ファンドですが、関係各部署の協力により2018年10月に自己資金3億円で大和アセットマネジメント（株）（当時は大和証券投資信託委託（株））により設定されました。しかしながら、設定から2か月ほど経過したクリスマスの日には基準価額は6,726円まで下落、厳しいスタートとなりました。その後、基準価額は上昇したものの、設定から1年程経過した2019年10月末時点でも、純資産額は5億円までしか増えませんでした。「レバレッジファンドを活用した資産形成」という考え方を世の中に広めるのは難しいのかな、と思った時期もありました。その後、ネット証券各社の販売手数料無料化をきっかけに、徐々に資金流入が見られ始めた矢先のコロナショック……。その頃は、これほど短期間のうちに純資産額が1,000億円を超えるなど想像もできませんでした。

現在のレバナス界隈の活況を見るにつけ、ファンドの企画立案時から推進してきた者としては、まずは投資家のみなさまが投資成果を享受していることに対して大きな喜びを感じております。加えて、多くの個人投資家の方に「レバレッジファンドを活用した資産形成」という考え方にご賛同いただき、ご自身のオリジナルなレバナス活用法や投資成果をSNS上で披露、共有している方が増えていることについて驚きを禁じ得ません。同時に、個人投資家の方々に対して、投資の新しい選択肢を提供できたのではないかと、心から嬉しく思っております。

当ファンドへの投資手法としては、「一括vs積立」、「ガチホ・気絶」、「テクニカル分析による機動的な売買」など様々なアイディアが投資家の方々から出されております。もちろん、投資は自己責任ですので、どのような形で活用していただいても投資家のみなさまのご自由なのですが、当社としては「ツミレバ」、「ちょいレバ」という考え方を当社HP上で紹介していますので、ご参考にしていただければ幸いです。

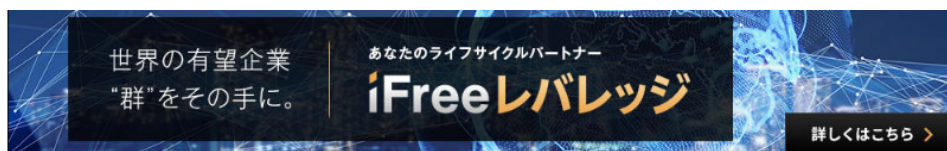
https://www.daiwa-am.co.jp/guide/media/lp/about_tsumileba.html

「NASDAQ100指数」は、本レポートに記載の通り、アップル、マイクロソフト、アマゾン、グーグル、テスラに加えて、いわゆるハイテク株以外にも含めて多数の超優良企業で構成されています。投資家のみなさまのポートフォリオの一部に当ファンドを加えることで、ポートフォリオ全体の資金効率が改善される可能性もあるのではないのでしょうか。みなさまにとっての選択肢の一つとして、ご検討いただけたら幸いです。

今後とも、当ファンドをご愛顧いただけるよう、知恵を絞って参ります。引き続き、ご愛顧のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

<当社HP上の参考コンテンツ抜粋>

世界の有望企業“群”をその手に あなたのライフサイクルパートナー



<https://www.daiwa-am.co.jp/special/ifreeleverage/>

オーナーシップ電卓



https://www.daiwa-am.co.jp/special/ownership_calculator/ifreeleverage_nasdaq100/

投資のニュースタイル ツミレバ



https://www.daiwa-am.co.jp/guide/media/lp/about_tsumileba.html

(動画) 米国株2倍を積み立てる iFreeレバレッジでツミレバ！

大和アセットマネジメント

米国株2倍を積み立てる

iFreeレバレッジでツミレバ！

積立投資×レバレッジ＝ツミレバ

資産形成の新たな投資法 / ツミレバ投資術の魅力
Step1 「長期積立投資 + レバレッジ?」
4557円

資産形成の新たな投資法 / ツミレバ投資術の魅力
Step2 「ツミレバの仕組みをみる」
7547円

資産形成の新たな投資法 / ツミレバ投資術の魅力
Step3 「ツミレバにiFree!」
59円

ツミレバ投資術の魅力

https://www.daiwa-am.co.jp/ifree_series/tsumireba/

ツミレバ博士の「レバレッジ活用講座」



ツミレバ博士の「レバレッジ活用講座」

もっといろんな投資方法を知りたい！ そんな時はツミレバ博士に相談。レバレッジを活用した投資方法を丁寧に解説！
ツミレバに活用できるファンドやコンテンツのまとめは**コチラ！**

https://www.daiwa-am.co.jp/guide/media/series/invest_tsumireba.html

マンガで学ぶ レバレッジのチカラ



マンガで学ぶ レバレッジのチカラ

マンガで学ぶ レバレッジのチカラ

投資だけでなく人生のさまざまな場面で使われる「レバレッジ」。何かと怖いイメージが思い浮かぶレバレッジですが、実は意外と身近な存在であったりもします。レバレッジとは何なのか、どんなチカラがあるのか、マンガでわかりやすく解説します。

https://www.daiwa-am.co.jp/guide/media/series/manga_leverage.html

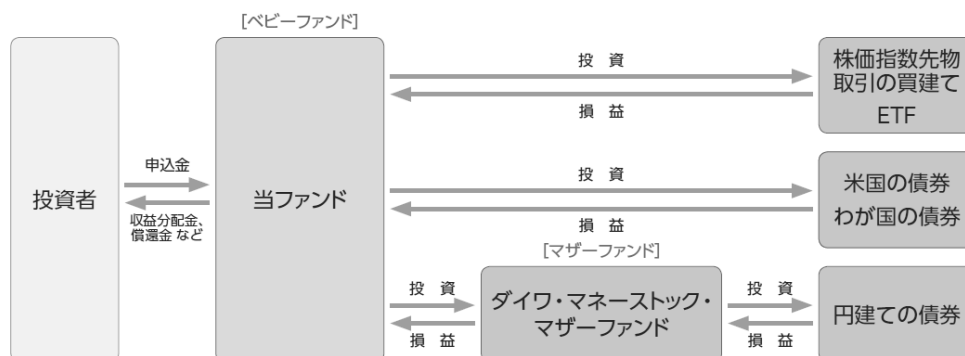
ファンドの目的・特色

ファンドの目的

日々の基準価額の値動きがNASDAQ100 指数（米ドルベース）の値動きの2倍程度となることをめざします。

ファンドの特色

1. 株式の組入総額と株価指数先物取引の買建玉の時価総額の合計額が、原則として信託財産の純資産総額の2倍程度になるように調整します。
2. 為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。
※ ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
※ 為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
3. 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。



●NASDAQ100指数について

NASDAQ100指数は、米国のナスダック市場に上場している時価総額の大きい非金融業100社の株式で構成される株価指数です（対象銘柄には、米国以外の企業の株式を含みます。）。指数の計算方法は、調整済時価総額加重平均方式です。定期的な採用銘柄の入替は毎年12月に行なわれますが、それ以外に、臨時に入替えが行なわれることがあります。

NASDAQ100指数は、1985年1月31日以降継続して算出され、現在の指数値は算出開始時の値を125として計算されています。なお、NASDAQ100指数は、ナスダック市場の全銘柄で構成されるNASDAQ総合指数(NASDAQ Composite Index)とは異なる指数です。

当ファンドは、Nasdaq, Inc. またはその関連会社（以下、Nasdaq, Inc. およびその関連会社を「株式会社」と総称します。）によって、支援、推奨、販売または販売促進されるものではありません。株式会社は、ファンドの合法性もしくは適合性について、または当ファンドに関する記述および開示の正確性もしくは妥当性について認定するものではありません。株式会社は、当ファンドの保有者または公衆一般のいかなる者に対しても、一般的な証券投資または特に当ファンドへの投資についての妥当性や、NASDAQ-100 Indexの一般的な株式市況への追従可能性について、明示的か黙示的かを問わず、何らの表明もしくは保証も行ないません。株式会社と大和アセットマネジメント株式会社との関係は、Nasdaq®およびNASDAQ-100 Indexの登録商標ならびに株式会社の一定の商号について使用を許諾すること、ならびに、大和アセットマネジメント株式会社または当ファンドとは無関係に、ナスダックが決定、構築および算出を行なうNASDAQ-100 Indexの使用を許諾することに限られます。ナスダックは、NASDAQ-100 Indexの決定、構築および計算に関し、大和アセットマネジメント株式会社または当ファンドの保有者の要望を考慮する義務を負いません。株式会社は、当ファンドの発行に関してその時期、価格もしくはその数量の決定について、または当ファンドを換金する際の算式の決定もしくは計算についての責任を負っておらず、また関与をしていません。株式会社は、NASDAQ-100 Indexとそれに含まれるデータの正確性および中断されない算出を保証しません。株式会社は、NASDAQ-100 Indexまたはそれに含まれるデータの利用により、大和アセットマネジメント株式会社、当ファンドの保有者またはその他いかなる者もしくは組織に生じた結果についても、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行ないません。株式会社は、明示的か黙示的かを問わず、何らの保証も行なわず、かつNASDAQ-100 Index®またはそれに含まれるデータの利用に関する、特定の目的または利用のための市場商品性または適合性については、いかなる保証についても明示的に否認します。上記に限らず、いかなる場合においても、株式会社は、いかなる逸失利益または特別、付随的、懲罰的、間接的もしくは派生的損害や損失について、たとえもし当該損害等の可能性につき通知されていたとしても、何らの責任も負いません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価指数先物取引の利用に伴うリスク」、「価格変動リスク・信用リスク（株価の変動、公社債の価格変動）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※ファンド保有期間が2日以上の場合の投資成果は、通常「2倍程度」になるわけではありません。

※NASDAQ100 指数が上昇・下落を繰返した場合には、当ファンドの基準価額は時間の経過とともに押下げられることとなります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉2.2%（税抜2.0%）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 （信託報酬）	年率0.99% （税抜0.9%）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
その他の費用・ 手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。また、上場投資信託証券は市場価格により取引されており、費用を表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

設定・運用：

商号等

加入協会

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第352号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

iFreeレバレッジ NASDAQ100 取扱い販売会社

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社紀陽銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第8号	○			
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○			
株式会社中国銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第2号	○	○		
株式会社東邦銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第7号	○			
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○	○		
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○
OKB証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第191号	○			
岡三オンライン証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
ぐんぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2938号	○			
株式会社CONNECT	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3186号	○			
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
立花証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第110号	○	○		
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○		○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
むさし証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第105号	○			○
LINE証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3144号	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

上記の販売会社については今後変更となる場合があります。また、新規のご購入の取り扱いを行っていない場合がありますので、各販売会社にご確認ください。